

201128135B

厚生労働科学研究費補助金

難治性疾患克服研究事業

白斑・白皮症の本邦における診断基準及び

治療^指針の確立

平成22～23年度 総合研究報告書

研究代表者 片山 一朗

平成24年（2012年）3月

厚生労働科学研究費補助金

難治性疾患克服研究事業

白斑・白皮症の本邦における診断基準及び
治療方針の確立

平成21～23年度 総合研究報告書

研究代表者 片山 一郎

平成24年（2012年）3月

目 次

I. 総合研究報告

- 白斑・白皮症の本邦における診断基準及び治療方針の確立に関する研究
片山 一朗（大阪大学医学系研究科皮膚科学教室）…………… 3

II. 平成21年度 白斑の診断基準及び治療方針の確立（H21-難治-一般-181）

1. 白斑の診断基準及び治療方針の確立
片山 一朗（大阪大学医学系研究科皮膚科学教室）……………21
2. 先天性白斑を呈する疾患の診断基準と遺伝子診断の確立
鈴木 民夫（山形大学医学部皮膚科）……………29
3. 尋常性白斑における表皮角化細胞とメラノサイトのクロストーク変調に関する研究
佐野 栄紀（高知大学医学部皮膚科）……………32
4. ワールデンブルグ症候群における白斑の病態研究
深井 和吉（大阪市立大学医学部皮膚科）……………33
5. 尋常性白斑における表皮真皮相互作用の特殊性に関する研究および
尋常性白斑の治療として植皮が有用かを検証する研究
山口 裕史（名古屋市立大学大学院皮膚科）……………34
6. 先天性白斑の発症機序に関する研究
大磯 直毅（近畿大学医学部皮膚科）……………36
7. 結節性硬化症の白斑の病態解明のための研究
金田 眞理（大阪大学医学部皮膚科）……………37
8. 尋常性白斑皮膚における STAT3 の活性化とその生物学的意義について
種村 篤（大阪大学医学部皮膚科）……………39
9. 尋常性白斑の治療にステロイド外用および内服が有用かを検証する研究
塚本 克彦（山梨県立中央病院皮膚科）……………40
10. 白斑治療の EBM による評価と発症機序に関する研究
川上 民裕（聖マリアンナ医科大学皮膚科）……………42
11. 難治性白斑患者に対するカモフラージュメイクの効用の検討
谷岡 未樹（福井赤十字病院皮膚科）……………45
12. 尋常性白斑患者における労働生産性
田中 智子（東京医科歯科大学医学部皮膚科）……………46

III. 平成22年度研究報告（H22-難治-一般-176）

1. 白斑・白皮症の本邦における診断基準及び治療方針の確立
片山 一朗（大阪大学医学系研究科皮膚科学教室）……………51
2. 稀な色素異常および悪性黒色腫の病態解明と治療法の確立
大磯 直毅（近畿大学医学部皮膚科）……………62

3. 色素細胞（メラノサイト）における BMP と RET の相互関係	
川上 民裕（聖マリアンナ医科大学皮膚科）	66
4. PCWH をめぐる臨床的問題	
深井 和吉（大阪市立大学大学院医学研究科皮膚病態学）	68
5. 白斑を呈する先天性色素異常症の遺伝子診断と病態解明の研究	
鈴木 民夫（山形大学医学部情報構造統御学講座皮膚科学）	70
6. 白斑に対するナローバンド UVB 療法の有効性 の評価と安全性の確立	
錦織千佳子（神戸大学大学院医学系研究科内科系講座皮膚科学分野）	72
7. 結節性硬化症の白斑の病態解明のための研究	
金田 眞理（大阪大学医学系研究科皮膚科学教室）	75
8. TH17 細胞関連サイトカインの色素細胞に対する生物学的機能の解析	
種村 篤（大阪大学医学系研究科皮膚科学教室）	77
9. 成体マウスの毛周期における色素細胞の 2 段階活性化	
田中 智子・上野真紀子・横関 博雄（東京医科歯科大学大学院皮膚科）	79
10. 尋常性白斑に対するカムフラージュメイクが QOL に与える影響	
谷岡 未樹（京都大学医学部皮膚科）	81
11. 白斑の現状把握のための研究	
三橋善比古・阿部名美子（東京医科大学皮膚科）	83
12. 分節型尋常性白斑に対する新しい外科的治療法の確立	
塚本 克彦（山梨県立中央病院皮膚科）	85
13. ビタミン D3 と紫外線照射による再色素化に関わる表皮角化細胞の役割	
佐野 栄紀（高知大学医学部皮膚科）	87
IV. 平成23年度研究報告（H22- 難治 - 一般 -176）	
1. 尋常性白斑における表皮角化細胞の役割	
佐野 栄紀・高田 智也（高知大学医学部皮膚科）	91
2. 結節性硬化症の白斑	
金田 眞理（大阪大学医学系研究科皮膚科学教室）	93
3. 白斑を呈する先天性色素異常症の遺伝子診断と病態解明の研究	
鈴木 民夫（山形大学医学部情報構造統御学講座皮膚科学）	96
4. 変異が同定できなかった「まだら症」についてのアレイ CGH 法による遺伝子変異解析	
深井 和吉（大阪市立大学大学院医学研究科皮膚病態学）	99
5. 日本人汎発型尋常性白斑における自己免疫性疾患罹患率の解析	
大磯 直毅（近畿大学医学部皮膚科）	101
6. 当院で長期間観察した白斑症例の解析	
三橋善比古・阿部名美子（東京医科大学皮膚科）	104
7. 白斑に対する副作用の軽減をめざす NB-UVB 光線治療法に関する研究	
錦織千佳子（神戸大学大学院医学系研究科内科系講座皮膚科学分野）	105

8. 色素細胞の分化におけるチロシナーゼ関連蛋白質 1 と活性型ビタミン D3 の位置づけ 川上 民裕 (聖マリアンナ医科大学皮膚科)	108
9. 尋常性白斑の鬱状態に関する簡易な評価法の調査 谷岡 未樹 (京都大学医学部皮膚科)	111
10. 広範囲尋常性白斑に対する脱色素治療法の確立 塚本 克彦 (山梨県立中央病院皮膚科)	113
11. 尋常性白斑患者の労働生産性 宗次 太吉・上野真紀子 (東京医科歯科大学大学院皮膚科)	115
12. 尋常性白斑病変における細胞浸潤パターンの検討および樹状細胞活性化機序の解明 種村 篤 (大阪大学医学系研究科皮膚科学教室)	117
V. 研究成果の刊行に関する一覧表	121

I. 総合研究報告

白斑・白皮症の本邦における診断基準及び 治療方針の確立に関する研究

研究代表者 片 山 一 朗
大阪大学医学部皮膚科教授

研究要旨

白斑、白皮症は異なった病因病態の疾患を包括した疾患概念であり、先天性、後天性それぞれの疾患によりその治療法が異なる。臨床的にも難治性で再発傾向が強く治療に苦慮する。また先天異常、合併奇形、自己免疫病などの全身疾患の合併の検索のためにも正確な診断が不可欠であるが、確定診断に遺伝子検査が必要な場合もあり、診断が正確におこなわれていないのが現状である。本研究班ではこれらの問題を解決する目的で最終年度の研究活動を継続施行した。先天性、後天性の白斑・白皮症において本邦での患者数、診断・治療の実態を明らかにし、診断・治療ガイドライン（案）が策定でき、現在日本皮膚科学会に尋常性白斑診療ガイドラインとして最終案を投稿している。先天性の色素異常症に関しては、現在紫外線発ガンの予防、合併症の評価と適切な治療、生活指導を見据えた診療ガイドラインを継続して作成中である。難治性の自己免疫性白斑の患者数の自然免疫系に関わる分子群遺伝子の遺伝多形解析を目的としたコロラド大学との共同研究は欧米、日本、台湾でデータが集積され、現在解析作業中であり、引き続き研究班が存続すればさらに症例数を増やして検討していきたい。治療法においてはナローバンド UVB とエキシマランプの使用基準と長期安全性に関するコンセンサスを国際白斑研究班（*Vitiligo global issues” consensus conference*）との合同研究として着手した。また新規白斑治療薬として、M-TOR 阻害軟膏が結節性硬化症の白斑に効果を示す事を世界に先駆けて論文化した。さらに後天性白斑への効果の検討も開始した。遺伝性の色素異常症に外用療法が効果を示すデータが得られたことは画期的であり、今後作用機序や動物モデルを樹立することで継続して研究を進めていきたい。さらに患者会との連携によるカモフラージュの指導や 1 mm パンチグラフトの有効性などあらたな治療法も開発・検証できたことは本研究の成果として特筆される。

研究分担者

鈴木 民夫	山形大学医学部	皮膚科	教授
佐野 栄紀	高知大学医学部	皮膚科	教授
錦織千佳子	神戸大学医学部	皮膚科	教授
深井 和吉	大阪市大医学部	皮膚科	准教授
大磯 直毅	近畿大学医学部	皮膚科	講師
金田 眞理	大阪大学医学部	皮膚科	講師
種村 篤	大阪大学医学部	皮膚科	助教

細胞障害説、末梢神経異常説等が唱えられており、臨床的には汎発型と分節型があり、その病因の違いから症状や経過、治療の反応に違いが認められる。通常診断は特異な臨床症状よりなされ、治療方法はステロイドの外用、紫外線照射、ビタミン D3 製剤、タクロリムス軟膏、種々の植皮術が施行されるが何れも確立された確実な治療法ではなく、白斑のタイプや治療開始時期により治療効果が異なる。

A. 研究目的

白斑には後天性に生じる尋常性白斑や老人性白斑等の色素脱失症と眼皮膚白皮症やまだら症、伊藤白斑、結節性硬化症等の先天性遺伝性色素脱失症など、病因病態の全く異なる疾患が混在している。なかでも尋常性白斑は頻度が高く、患者の QOL を著しく低下させるが治療に抵抗性で、再発の頻度も高い難治性の疾患である。尋常性白斑の病因としては自己免疫説、自己

一方、先天性の白斑・白皮症は生後早期より出現し、生涯不変で、通常前述の後天性の白斑に対する治療には抵抗性で、眼、中枢神経系、運動器などの合併症をともなう病型もある。早期に確実に診断すること、これら合併症の早期発見、早期治療介入と患者指導が急務である。しかしながら現時点ではこれら白斑の診断基準や治療指針がない為、多くの患者が確定診断されずに、効果の低い治療法を漫然と施行されている。本研究班では白斑・白皮症の診断基準を確立し、

全国的な疫学調査で各白斑・白皮症の頻度、治療効果を明らかにするとともに、各白斑に対する治療指針を示し、白斑の診断と治療のためのガイドラインを作成することを目的とした。さらに疾患感受性遺伝子の検討とその普及のための活動を行い、治療に関しては正確な診断と治療法の科学的な評価の確立と新規治療薬の開発および、臨床効果の検討を目指すこととした。

B. 研究方法・結果

1) 白斑の疫学調査及び診断治療のガイドラインの作成（片山一郎，鈴木民夫）

診断基準

白斑・白皮症を先天性・後天性に分類し、合併症の診断アルゴリズムを作成した。日本皮膚科学会においてパブリックコメントを求め、最終案を取り纏めている。

治療指針の作成

本邦での治療指針とその科学的な評価はないため、欧米の文献、治療指針を渉猟し、研究班員によりその妥当性、推奨度を評価し、その結果を基礎資料として本邦での原疾患および合併症の治療指針案を作成した。

疫学調査

難治性の後天性汎発性自己免疫性白斑の患者数の実態調査と自然免疫系に関わる分子群遺伝子の遺伝多形解析を目的としてコロラド大学との共同研究を実施し、その結果を現在解析中である。

個別研究：各研究者に依頼した。

2) 白斑の治療効果の検討

1. 尋常性白斑に対する既存の治療の有用性の検討（片山一郎，鈴木民夫，種村篤，佐野栄紀）

各種外用治療（ステロイド、タクロリムス、活性型ビタミンD3）、紫外線（ナローバンドUVB療法、エキシマランプ）、外科的治療（吸引水疱蓋移植や1mmミニグラフト）の有用性について検討した。特に、活性型ビタミンD3外用薬と紫外線療法の併用療法は白斑の色素再生に有効性が見られた。また1mmパンチ植皮は術前にDonor skinにエキシマランプ照射をすることで術後の良好な色素再生の得られる事が明らかになった。

2. 長期間観察した白斑症例の解析（三橋善比古）

平成13年10月～平成23年9月末までの10年間に、白斑で受診した症例1301例について解析した。5年以上の長期観察ができた症例は72例であった。病型別では非分節型（A型）60例（83%）、分節型12例（17%）。改善傾向33%、不変43%、増悪23%。A型、改善32%、不変42%、増悪26%で、B型改善42%、不変50%、増悪8%。治療法は外用療法、光線療法、ステロイド内

服が主体で外用薬はステロイドとタクロリムスであった。外用療法はA型で78%の症例に、B型では58%の症例に用いられ、改善傾向はそれぞれ34%と28%であった。白斑は難治性疾患であるが、長期治療の改善率は、昨年報告した短期治療の結果に比べ、より高い率であった。

3. 副作用の軽減をめざすNB-UVB光線治療法の試み（錦織千佳子）

紫外線の副作用の指標としては、紫外線によって生じるDNA損傷で、紫外線発癌の主因と考えられているピリミジンダイマーが紫外線による免疫抑制反応の引き金と成る事が知られている。紫外線照射後、抑制性のサイトカインが産生されるのに必要な一定時間おき、ピリミジンダイマーの修復酵素を処理した上で、紫外線による免疫抑制反応とIL-10、IL17、IFN-gammaなどの種々のサイトカインのプロファイルを見た。結果、紫外線照射後3時間後に修復酵素を処理した群では、照射24時間後のIL-10の発現、接触過敏反応ともに紫外線照射のみの群と大きく変わらなかったが、72時間後のDNA損傷は減少していた。

4. 色素細胞の分化におけるチロシナーゼ関連蛋白質1と活性型ビタミンD3の位置づけ（川上民裕）

活性型ビタミンD3は、エンドセリンBレセプターの発現を誘導する。ここに、エンドセリンが過剰に存在すると、メラニン合成が強く誘導される。尋常性白斑における活性型ビタミンD3外用と紫外線照射の併用による治療が奏功する裏づけとなった結果であった。

5. 尋常性白斑患者の労働生産性（上野真紀子，谷岡未樹）

計31名から回答を得た。労働時間損失率は平均0.67%とほとんど障害されておらず、全般労働障害率も平均16.26%と軽度の障害にとどまっているが、日常活動性障害率は平均30.65%の障害がみられることがわかった。

3) 白斑の新しい病態解析と治療法の開発

1. 尋常性白斑における表皮角化細胞の役割（佐野栄紀）

尋常性白斑の患者の表皮角化細胞は健常人と比べ、紫外線照射によるET-1の発現が低下していた。色素脱失の原因の一因には表皮角化細胞からのmelanogenic mediatorsの産生不全が関与する可能性が示唆されたET-誘導作用をもつ薬剤の開発への成果と考える。

2. 結節性硬化症の白斑（金田真理）

TSC患者白斑部の組織について、光顕電顕でメラノサイトの有無、メラニン産生過程の異常の有無を調べ、ついで正常メラノサイトにラパマイシンを添加

し、メラニン産生量の変化を調べた。その結果、TSCの白斑部ではメラノサイトは存在するが、メラニン産生で異常が認められ、メラノサイトあたりのメラニン産生量はラパマイシンにより増加することが確認でき、今後の遺伝性白斑の治療に向けた画期的な成果と考える。

3. 白斑を呈する先天性色素異常症の遺伝子診断と病態解明の研究（鈴木民夫）

OCAの遺伝子診断：これまでに当大学にコンサルトされた85症例の解析を行なった。その結果、1型13例（15%）、2型4例（5%）、3型1例（1%）、4型12例（14%）、HPS1型13例（15%）、HPS4型1例（1%）、不明例41例（48%）の結果であった。依然として原因遺伝子不明例が多いことから、我々が検索していない別の未知の遺伝子があるのかもしれない。

Albinochipについて：L. Montoliu教授ら（スペイン）のグループと共同研究で、眼皮膚白皮症の原因遺伝子になりうる14種類の遺伝子で、これまでに報告されている変異を組み込んだAlbinochipを開発中である。これにより、既知の変異は速やかに診断可能となり、今後は新しい変異、あるいは新しい原因遺伝子の検索を目指す。

4. 変異が同定できなかった「まだら症」についてのアレイCGH法による遺伝子変異解析の試み（深井和吉）

今回のアレイCGH法による解析では、まだら症に特異的なゲノムコピー数異常は認められなかった。

5. 稀な色素異常症および悪性黒色腫の病態解明と治療法の確立（大磯直毅）

phylloid hypermelanosisを呈した日本人・29歳・男性の発症機構を解析した。染色体異常の有無をGバンドで解析したところ、末梢血リンパ球30個のうち、46, XY, r(13) (p11. 2q34)が21細胞、45, XY, -13が7細胞、46, XY, dicr(13) (p11. 2q34)が2細胞と部分モノソミーであった。自験例を詳細に解析することで、疾患概念の確立に寄与できた。

6. 尋常性白斑病変における細胞浸潤パターンの検討、および樹状細胞活化機序の解明（種村篤）

2007-2011年に当科を受診した汎発型白斑患者15例の病理組織を用い、病変部における免疫担当細胞（CD3, CD4, CD8, Foxp3, IL-17A, HLA-DR, AHR, CD1a, CD11c, CD83, CD123）の浸潤を免疫組織化学的に検証した。さらに、CD1a陽性ランゲルハンス細胞の浸潤パターン、白斑病変部・辺縁部・健常部における形態変化に関して共焦点レーザー顕微鏡および電子顕微鏡を用い詳細に観察した。

7. 尋常性白斑に対するカモフラージュメイクがQOLに与える影響（谷岡末樹）

尋常性白斑患者でカモフラージュメイクを希望した患者に対してカモフラージュメイク指導を行い、指導前と指導後のQOLの変化をDLQI（Dermatology Life Quality Index）を用いて評価した。対照群は、メイク指導を受けなかった尋常性白斑患者とした。

カモフラージュメイクを行っている患者はDLQI総スコアが5.90から4.48に改善した。一方、非受講群では、DLQI総スコアが3.18から4.36に変化した。両群における変化は優位差をもっていた（ $p < 0.005$ ）。

8. 分節型尋常性白斑に対する新しい外科的治療法の確立（塚本克彦）

超音波表皮剥離と細切皮膚植皮術を以下の方法で5症例に施行し、有効性を検証した。

1. 超音波手術機械（CUSA, ソノペット）により、白斑部の表皮層のみを浅く剥離除去する。
2. 極薄く採皮した皮膚を細切し、それを植皮部に散布し、トレックスガーゼにて固定する。
3. 術後4週目頃より、NB-UVB療法を併用し、点状に生着した部分から色素沈着の拡大を図る。皮膚の色素再生は全ての症例で75%以上認められた。また、超音波メスで削った部位の術後の癬痕形成が全くなく、整容的にも満足できる結果が得られた。

9. 尋常性白斑患者における労働生産性（宗次太吉）

尋常性白斑患者は病変の部位やその範囲によって、容姿や対人関係に影響を受けることは容易に想像できる。過去にQOLが低下した報告はあるが、治療のために定期的な通院を要したり、カムフラージュのための化粧などに要する時間なども含めてこの疾患が患者の社会活動に影響し、その労働生産性が低下する可能性も十分考えられることから尋常性白斑の労働生産性の障害の影響について検討した。

WPAI-GHスコアに基づき、白斑外来通院中の尋常性白斑患者の障害率を示した。労働時間は特に障害を受けないが、日常生活での活動障害性があった。

C. 考察

白斑は、本邦においては現時点では適切な診断基準、治療指針がなく、確定診断がつかずに放置されている患者や有効な治療が受けられずに社会生活を行う上で多大な精神的苦痛を強いられている患者が多数存在する。今後本研究班の成果により白斑/白皮症の発症頻度や治療効果が明らかにされ、難治性疾患と認識されることにより患者の精神的苦痛が緩和されることが考えられ、結果として患者の日常生活QOLの向上や労働生産性の改善が期待され、社会的にも大きな貢献を果たすことが出来る。さらに、白斑の診断基準と治療のガイドラインが作成されることにより、遺伝性先天性の白斑に関しては、早期に確定診断が付きその結

果、他の合併奇形の精査や治療を早期より開始できる。有効な治療法が確定していない尋常性白斑のような後天性の白斑については系統だった治療が可能になり、各疾患、時期に応じて最も有効な治療法の選択が可能になり、治療の有効率の改善が期待でき、多くの患者が精神的苦痛から解放される。これらは同時に早期診断早期治療が可能になり、無駄な治療が削減されることにより、医療経済の観点からみても有意義であると考えられる。特に遺伝性の色素異常症に外用療法が効果を示すデータが得られたことは画期的であり本研究班の大きな成果として世界に情報を発していきたい。

D. 結論

本研究により新しい治療法の確立と新規治療薬が開発されることになれば、今までの治療が無効であった症例にも有効な治療を提供できることになりその医学的社会的利益は多大である。また疾患感受性遺伝子の解析、世界の研究者との共同研究の推進、患者会との情報交換が確立できれば、我が国の厚生労働研究にも大きな貢献ができると考える。

E. 研究発表

1. 論文発表

(英語論文)

1. Kanayama Y, Tsuruta D, Tateishi C, Hasegawa Y, Amo K, Fukai K, Kobayashi H, Ishii M : Two cases of infantile linear immunoglobulin A/immunoglobulin G bullous dermatosis. *J Dermatol.* 2012 ; 39(2):176-8
2. Oiso N, Suzuki T, Fukai K, Katayama I, Kawada A: Non-segmental Vitiligo and Autoimmune Mechanism. *Dermatol Res Pract.* 2011; Article ID 518090, 7 pages
3. Narita T, Oiso N, Fukai K, Motokawa T, Hayashi M, Yokoyama K, Hozumi Y, Kawada A, Suzuki T: Two children with a mild or moderate piebaldism phenotype and a father with no leukoderma in a family with the same recurrent missense mutation in the kinase domain of KIT. *Euro J Dermatol.* 2011; 21(3): 446-7
4. Narita T, Oiso N, Fukai K, Kabashima K, Kawada A, Suzuki T: Generalized vitiligo and associated autoimmune diseases in Japanese patients and their families. *Allergol Int.* 2011; 60(4): 505-8
5. Kiyohara E, Tamai K, Katayama I, Kaneda Y: The combination of chemotherapy with HVJ-E containing Rad51 siRNA elicited diverse anti-tumor effects and synergistically suppressed melanoma. *Gene Ther.* (in press)
6. Katayama I, Kohno Y, Akiyama K, Ikezawa Z, Kondo N, Tamaki K, Kouro O: Japanese guideline for atopic dermatitis. *Japanese Society of Allergology.* (日本アレルギー学会ガイドライン) *Allergol Int.* 2011; 60(2): 205-20
7. Terao M, Murota H, Kimura A, Kato A, Ishikawa A, Igawa K, Miyoshi E, Katayama I: 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase -1 is a novel regulator of skin homeostasis and a candidate target for promoting tissue repair. *PLoS One.* 2011; 6(9): e25039
8. Terao M, Ishikawa A, Nakahara S, Kimura A, Kato A, Moriwaki K, Kamada Y, Murota H, Taniguchi N, Katayama I, Miyoshi E: Enhanced epithelial-mesenchymal transition-like phenotype in N-acetylglucosaminyltransferase V transgenic mouse skin promotes wound healing. *J Biol Chem.* 2011; 286(32): 28303-11
9. Kawakami T, Hashimoto T: Disease severity indexes and treatment evaluation criteria in vitiligo. *Dermatol Res Pract.* (in press)
10. Kawakami T, Kumasaka M, Kato M, Mizoguchi M, Soma Y: BMP-4 down-regulates the expression of Ret in murine melanocyte precursors. *J Dermatol Sci.* 2011; 63(1): 66-9
11. Matsumoto Y, Mitsuhashi Y, Monma F, Suzuki T, Kawaguchi M, Igarashi A, Miyabe C, Tsuboi R: Nephrogenic Systemic Fibrosis; A case report and review on Japanese patients. *J Dermatol.* (in press)
12. Fujiwara S, Nagai H, Oniki S, Yoshimoto T, Nishigori C: Interleukin (IL)-17 versus IL-27: opposite effects on tumor necrosis factor- α -mediated chemokine production in human keratinocytes. *Exp Dermatol.* 2012; 21(1): 70-2
13. Kunisada M, Yogi F, Sakumi K, Ono R, Nakabeppu Y, Nishigori C: Increased Expression of Versican in the Inflammatory Response to UVB- and Reactive Oxygen Species-Induced Skin Tumorigenesis. *Am J Pathol.* 2011; 179(6): 3056-65
14. Oka M, Edamatsu H, Kunisada M, Hu L, Takenaka N, Sakaguchi M, Kataoka T, Nishigori C: Phospholipase C ϵ has a crucial role in ultraviolet B-induced neutrophil-associated skin inflammation by regulating the expression of

- CXCL1/KC. *Lab Invest.* 2011; 91(5): 711-8
15. Masuoka E, Bito T, Shimizu H, Nishigori C: Dysfunction of melanocytes in photoleukomelanoderma following photosensitivity caused by hydro-chlorothiazide. *Photodermatol Photoimmunol Photomed.* 2011; 27(6): 328-30
 16. Nagai H, Sakaguchi M, Ikeda T, Nishigori C: Grayish brown macules on axillae, lower abdomen and groins. *Arch Dermatol.* 2011; 147(9): 1097-102
 17. Oiso N, Kimura M, Kawada A: A dermoscopic figure of polymorphous atypical vessels with color gradation: a quiz. *Acta Derm Venereol.* 2011; 91(6): 737-8
 18. Oiso N, Kawada A: Freckling promoted by topical tacalcitol in a Japanese boy with left eyelid vitiligo. *Pediatr Dermatol.* (in press)
 19. Sasaya H, Kawada A, Wada T, Hirao A, Oiso N: Clinical effectiveness of intense pulsed light therapy for solar lentiginosities of the hands. *Dermatol Ther.* (in press)
 20. Oiso N, Tsuruta D, Imanishi H, Kobayashi H, Kawada A: Erythema dyschromicum perstans in a Japanese pediatric patient. *Pediatr Dermatol.* (in press)
 21. Wada T, Kawada A, Hirao A, Sasaya H, Oiso N: Efficacy and safety of low-energy double-pass 1450-nm diode laser for the treatment of acne scars. *Photomed Laser Surg.* (in press)
 22. Oiso N, Kawada A: A house cat scratching-induced linear vitiligo as Köbner phenomena. *J Dermatol.* (in press)
 23. Oiso N, Kawada A: Renbök phenomenon in a patient with alopecia areata universalis and psoriasis. *J Dermatol.* (in press)
 24. Oiso N, Kawada A: Unusual exophytic inclusion warts as a cutaneous horn on the dorsum of the hand. *Eur J Dermatol.* (in press)
 25. Nakano S, Oiso N, Kawada A: Coexisting pustular and ulcerative pyoderma gangrenosum. *Eur J Dermatol.* 2012; 22(1): 153-4
 26. Kawada A, Wada T, Oiso N: Clinical effectiveness of levofloxacin for inflammatory acne with high concentrations in the lesions. *J Dermatol* 2012; 39(1): 94-6
 27. Oiso N, Kimura M, Kawara S, Kawada A: Clinical, dermoscopic and histopathologic features in a case of infantile hemangioma without proliferation. *Pediatr Dermatol.* 2011; 28: 66-8
 28. Hirao A, Oiso N, Tsurutani J, Kimura M, Watatani M, Nakagawa K, Kawada A: The transient effectiveness of an oral 5-fluorouracil derivative S-1 for epirubicin, cyclophosphamide and paclitaxel refractory skin metastases from possible occult breast cancer in a male. *Case Rep Dermatol.* 2011; 3: 42-8
 29. Oiso N, Kawada A: Melanocytic nevi in nevus depigmentosus in a region of the body exposed to sunlight. *Acad Dermatol Venereol.* 2011; 25: 491-2
 30. Oiso N, Kawada A: Review of allergic and photoallergic contact dermatitis from an ingredient in a medicament vehicle consisting of a compress, poultice, plaster and tape. *J Allergy* 2011: 169432
 31. Matsuda M, Oiso N, Yano Y, Kawada A: Dermoscopy for tick bite: reconfirmation of the usefulness for the initial diagnosis. *Case Rep Dermatol.* 2011; 3:94-7
 32. Oiso N, Amatsu A, Kawada A: Hyperpigmented spots within and partly around a hypopigmented macule. *Int J Dermatol.* 2011; 50: 795-7
 33. Oiso N, Kawada A: The dermoscopic features in disseminated superficial actinic porokeratosis. *Eur J Dermatol.* 2011; 21: 439-40
 34. Oiso N, Kawada A: Dermoscopy of pyogenic granuloma on the lip: the differing appearances of vascular structures with and without pressure. *Eur J Dermatol.* 2011; 21: 441
 35. Kawada A, Sasaya H, Hirao A, Wada T, Oiso N, Ishihara K: Skin typing, sun exposure, and sunscreen use in a population of Japanese females using an online interview. *香粧会誌* 2011; 35: 89-92
 36. Natsuga K, Nishie W, Smith BJ, Shinkuma S, Smith TA, Parry DAD, Oiso N, Kawada A, Yoneda K, Akiyama M, Shimizu H: Consequences of two different amino acid substitutions at the same codon in KRT14 indicate definitive roles of structural distortion in epidermolysis bullosa simplex pathogenesis. *J Invest Dermatol.* 2011; 131: 1869-76
 37. Higuchi K, Oiso N, Yoshida M, Kawada A: Preoperative assessment using magnetic resonance imaging for subungual exostosis beneath the proximal region of the nail plate. *Case Rep Dermatol.* 2011; 3: 155-7

38. Oiso N, Tatsumi Y, Rai S, Matsumura I, Kawada A: Superimposed linear graft-versus-host disease and secondary cutaneous involvement of anaplastic large cell lymphoma. *Eur J Dermatol.* 2011; 21: 636-8
39. Oiso N, Kawada A: The diagnostic usefulness of dermoscopy for nevus depigmentosus. *Eur J Dermatol.* 2011; 21: 639-40
40. Oiso N, Kawada A: The dermoscopic features in infantile hemangioma. *Pediatr Dermatol.* 2011; 28: 591-3
41. Yoshida M, Oiso N, Kimura M, Itoh T, Kawada A: Skin ulcer mimicking pyoderma gangrenosum in a patient with incontinentia pigmenti. *J Dermatol.* 2011; 38: 1019-21
42. Arase A, Wataya-Kaneda M, Oiso N, Tanemura A, Kawada A, Suzuki T, Katayama I: Repigmentation of leukoderma in a piebald patient associated with a novel c-KIT gene mutation, G592E, of the tyrosine kinase domain. *J Dermatol Sci.* 58: 147-9, 2011
43. Oiso N, Kurokawa I, Tsuruta D, Narita T, Chikugo T, Tsubura A, Kimura M, Baran R, Kawada A: The histopathological feature of the nail isthmus in an ectopic nail. *Am J Dermatopathol.* (in press)
44. Oiso N, Murata I, Hayashi M, Amatsu A, Yoshida M, Suzuki T, Kawada A: Dermoscopic features in a case of dyschromatosis symmetrica hereditaria. *J Dermatol.* 2011; 38: 91-3
45. Kawara S, Oiso N, Kawada A: Disseminated superficial actinic porokeratosis in a patient with a long-term narrow-band UVB for psoriasis. *J Dermatol.* 2011; 38: 585-7
46. Hanafusa T, Azukizawa H, Kitaba S, Murota H, Umegaki N, Terao M, Sano S, Nakagiri T, Okumura M, Katayama I: Diminished regulatory T cells in cutaneous lesions of thymoma-associated multi-organ autoimmunity: a newly described paraneoplastic autoimmune disorder with fatal clinical course. *Clin Exp Immunol.* 2011; 166(2): 164-70
47. Hayashi M, Nakano H, Sawamura D, Suzuki T: Case of epidermolytic palmoplantar keratoderma with knuckle pads. *J Dermatol* (in press)
48. Hayashi M, Yamada M, Hiroshima Y, Suzuki T: A case of multiple myeloma presenting as a subcutaneous nodule on the abdomen. *J Dermatol* (in press)
49. Kono M, Kondo T, Ito S, Suzuki T, Wakamatsu K, Ito S, Tomita Y: Oculocutaneous albinism 1 minimal pigment type: A case report on the analysis of genotype of an OCA1MP patient. *Br J Dermatol.* (in press)
50. Hayashi M, Kawaguchi M, Hozumi Y, Nakano H, Sawamura D, Suzuki T: Dystrophic epidermolysis bullosa pruriginosa of elderly onset. *J Dermatol.* 2011; 38: 173-8
51. Hayashi M, Suzuki T: A case of subcutaneous lobular capillary hemangioma. *J Dermatol.* 2011; 38:1003-6
52. Yamada M, Hayashi M, Sakai K, Hozumi Y, Abe Y, Kawaguchi M, Ihn H, Suzuki T: Oculocutaneous Albinism Type 3: a Japanese Girl With Novel Mutations in TYRP1 gene. *J Dermatol Sci.* 2011; 64: 217-22
53. Kono M, Akiyama M, Kondo T, Suzuki T, Suganuma M, Wataya-Kaneda M, Lam J, Shibaki A, omita Y: Four novel ADAR1 gene mutations in patients with dyschromatosis symmetrica hereditaria. *J Dermatol.* 2011; 38: 1-3
54. Itoi S, Tanemura A, Nishioka M, Sakimoto K, Imuro E, Katayama I: An Evaluation of the Clinical Safety and Efficacy of a Newly Developed 308nm Excimer Lamp for Vitiligo Vulgaris. *J Dermatol.* (in press)
55. Tanemura A, Yajima T, Nakano M, Nishioka M, Itoi S, Kotobuki Y, Higashiyama M, Katayama I: Seven Cases of Vitiligo Complicated by Atopic Dermatitis: Suggestive New Spectrum of Autoimmune Vitiligo. *Eur J Dermatol.* (in press)
56. Kotobuki Y, Tanemura A, Yang L, Itoi S, Wataya-Kaneda M, Murota H, Fujimoto M, Serada S, Naka T, Katayama I: Dysregulation of Melanocyte Function by Th17-related Cytokines: Significance of Th17 Cell Infiltration in Autoimmune Vitiligo Vulgaris. *Pigment Cell Melanoma Res.* 2012; 25(2): 219-30
57. Namiki T, Tanemura A, Valencia JC, Coelho SG, Passeron T, Kawaguchi M, Vieira WD, Ishikawa M, Nishijima W, Izumo T, Kaneko Y, Katayama I, Yamaguchi Y, Yin L, Polley EC, Liu H, Kawakami Y, Eishi Y, Takahashi E, Yokozeki H, Hearing VJ: AMP kinase-related kinase NUA2 affects tumor growth, migration, and clinical outcome of human melanoma. *Proc Natl Acad Sci U S A.* 2011; 108(16): 6597-602

58. Murata T, Yagi Y, Tanioka M, Suzuki T, Miyachi Y, Morita K, Utani A : Dyschromatosis symmetrica hereditaria with acral hypertrophy. *Euro J Dermatol.* 2011; 21: 649-50
59. Yamamoto Y, Tanioka M, Hayashino Y, Mishina H, Kato M, Fukuhara S, Utani A, Miyachi Y: Application of a two-question screening instrument to detect depressive symptoms in patients with vitiligo. *J Am Acad Dermatol.* 2011; 64(5): e69-70
60. Wataya-Kaneda M, Tanaka M, Nakamura A, Matsumoto S, Katayama I: A novel application of topical rapamycin formulation, an inhibitor of mTOR, for patients with hypomelanotic macules in tuberous sclerosis complex. *Arch Dermatol.* (in press)
61. Wataya-Kaneda M, Tanaka M, Nakamura A, Matsumoto S, Katayama I: A topical combination of rapamycin and tacrolimus for the treatment of angiofibroma due to tuberous sclerosis complex (TSC): a pilot study of nine Japanese patients with TSC of different disease severity. *Br J Dermatol.* 165(4): 912-6, 2011
62. Murakami Y, Wataya-Kaneda M, Terao M, Azukizawa H, Murota H, Nakata Y, Katayama I: Peculiar distribution of tumorous xanthomas in an adult case of Erdheim-Chester disease complicated by atopic dermatitis. *Case Rep Dermatol.* 3(2): 107-12, 2011
63. Murata I, Hayashi M, Hozumi Y, Fujii K, Mitsuhashi Y, Oiso N, Fukai K, Kuroki N, Mori Y, Utani A, Tomita Y, Shimizu H, Suzuki T : Mutation Analysis of Patients with Dyschromatosis Symmetrica Hereditaria: Five Novel Mutations of the ADAR1 Gene. *J Dermatol Sci.* 2010 ; 58 : 218-20
64. Murota H, Kitaba S, Tani M, Wataya-Kaneda M, Azukizawa-H, Tanemura A, Umegaki N, Terao M, Kotobuki Y, Katayama I : Impact of Sedative and Non-Sedative Antihistamines on the Impaired Productivity and Quality of Life in Patients with Pruritic Skin Disease. *Allergy International.* 2010; 163: 345-54
65. Kawakami T, Fujita A, Soma Y: Brownish macules on the face and upper back. *Clin Exp Dermatol.* 2010; 35: 172-3
66. Kawakami T, Kimura S, Soma Y: Unilateral nevoid telangiectasia on the lower extremity of a pediatric patient. *J Am Acad Dermatol.* 2010; 62: 528-30
67. Nishitani N, Bito T, Ikeda T, Tokura Y, Nishigori C: Nishitani N, Bito T, Ikeda T, Tokura Y, Nishigori C: Complete remission of metastatic malignant melanoma after surgery in association with development of systemic vitiligo. *J Dermatol.* 2010; 37(8): 770-2
68. Bito T, Sumita N, Masaki T, Shirakawa T, Ueda M, Yoshiki R, Tokura Y, Nishigori C: Ultraviolet light induces Stat3 activation in human keratinocytes and fibroblasts through reactive oxygen species and DNA damage. *Exp Dermatol.* 2010; 19(7): 651-60
69. Sreevidya C.S, Fukunaga A, Khaskhely N.M, Masaki T, Ono R, Nishigori C, Ullrich S.E: Agents that reverse UV-Induced immune suppression and photocarcinogenesis affect DNA repair. *J Invest Dermatol.* 2010; 130(5): 1428-37
70. Yoshinaga E, Oiso N, Kawara S, Kawada A: An adolescent patient with scabies mimicking Gottron papules. *Case Rep Dermatol.* 2010; 2: 8-12
71. Oiso N, Kawara S, Yano Y, Kawada A: The diagnostic effectiveness of dermoscopy for tick bite. *J Eur Acad Dermatol Venereol.* 2010; 24: 231-2
72. Oiso N, Tsuruta D, Imanishi H, Sasaya H, Narita T, Kobayashi H, Ikegami H, Kawada A: Phylloid hypermelanosis and melanocytic nevi with aggregated and disfigured melanosomes: causal relationship between the phylloid pigment distribution and chromosome 13 abnormalities. *Dermatology* 2010; 220: 169-72
73. Oiso N, Rai S, Kawara S, Tatsumi Y, Kawada A: Genital infection as a first sign of acute myeloid leukemia. *Case Rep Dermatol.* 2010; 2: 18-21
74. Rind T, Oiso N, Yamadori Y, Hirao A, Kawara S, Kawada A: Photoallergic contact dermatitis due to ketoprofen and hydrogenated rosin glycerol ester. *Case Rep Dermatol.* 2010; 2: 36-9
75. Rind T, Oiso N, Kawada A: Successful treatment for anogenital wart with a topical vitamin D3 derivative in an infant. *Case Rep Dermatol.* 2010; 2:46-9
76. Rind T, Oiso N, Hirao A, Kawada A: Allergic contact dermatitis with diffuse erythematous reaction from diisopropanolamine in a compress. *Case Rep Dermatol.* 2010; 2: 50-4
77. Oiso N, Yoshida M, Kawara S, Kawada A: A case

- of amelanotic vulvar melanoma with intratumor histological heterogeneity. *J Dermatol.* 2010; 37: 537-41.
78. Murata I, Hayashi M, Hozumi Y, Fujii K, Mitsuhashi Y, Oiso N, Fukai K, Kuroki N, Mori Y, Utani A, Tomita Y, Shimizu H, Suzuki T: Mutation Analysis of Patients with Dyschromatosis Symmetrica Hereditaria: Five Novel Mutations of the ADAR1 Gene. *J Dermatol Sci.* 2010; 58: 518-20
 79. Yoshida M, Oiso N, Kurokawa I, Tsubura A, Kimura M, Kawada A: A case of multiple pilosebaceous cysts. *Case Rep Dermatol.* 2010; 2: 116-9
 80. Oiso N, Tsuruta D, Imanishi H, Hirao A, Wada T, Sasaya H, Kobayashi H, Kawada A: The effectiveness of intense pulsed light for possible Riehl's melanosis. *Dermatol Ther.* 2010; 23: 561-3
 81. Oiso N: Regulatory T Cells in Atopic Dermatitis. *Recent Pat Inflamm Allergy Drug Discov.* 2010; 4: 244-8
 82. Nakayama T, Watanabe Y, Oiso N, Higuchi T, Shigeta A, Mizuguchi N, Katou F, Hashimoto K, Kawada A, Yoshie O: Eotaxin-3/CC chemokine ligand 26 is a functional ligand for CX3CR1. *J Immunol.* 2010; 185: 6472-9
 83. Oiso N, Nakano A, Yano Y, Kawada A: The diagnostic usefulness of dermoscopy for identifying six-legged larval ticks. *Ticks Tick Borne Dis.* 2010; 1: 197-8
 84. Hayashi M, Saito H, Monma F, Katagiri Y, Kawaguchi M, Mitsuhashi Y, Abe Y, Suzuki T: Linear IgA bullous dermatosis associated with herpes simplex virus infection and Kawasaki disease. *J Dermatol.* 2010; 37(3): 276-9
 85. Hayashi M, Suzuki T: A missense mutation c.G2747A (p.R916Q) of ADAR1 gene in dyschromatosis symmetrica hereditaria is not a novel mutation. *Arch Dermatol Res.* 2010; 302: 481-2
 86. Shimada Y, Kosho T, Wataya-Kaneda M, Funakoshi M, Suzuki T, Hayashi S, Mitsuhashi Y, Ise T, Aoki Y, Yamazaki K, Ono M, Makino K, Tanaka T, Kunii E, Hatamochi A: Clinical and genetic features of 20 Japanese patients with vascular-type Ehlers-Danlos syndrome. *Br J Dermatol.* 2010; 28: 704-10
 87. Terao M, Sakai N, Higashiyama S, Kotobuki Y, Tanemura A, Wataya-Kaneda M, Yutsudo M, Ozono K, Katayama I: Cutaneous symptoms in a patient with cardio-faciocutaneous syndrome and increased ERK phosphorylation in skin fibroblasts. *Br J Dermatol.* 2010; 163: 880-9
 88. Tanioka M, Yamamoto Y, Kato M, Miyachi Y: Camouflage lessons for vitiligo patients improved their quality of life. *J Cosmet Dermatol.* 2010; 9(1):72-5
 89. Terao M, Sakai N, Higashiyama S, Kotobuki Y, Tanemura A, Wataya-Kaneda M, Yutsudo M, Ozono K, Katayama I: Cutaneous symptoms in a patient with cardiofaciocutaneous syndrome and increased ERK phosphorylation in skin fibroblasts. *Br J Dermatol.* 2010; 163: 880-99
 90. Murota H, Kitaba S, Tani M, Wataya-Kaneda M, Azukizawa-H, Tanemura A, Umegaki N, Terao M, Kotobuki Y, Katayama I: Impact of Sedative and Non-Sedative Antihistamines on the Impaired Productivity and Quality of Life in Patients with Pruritic Skin Disease. *Allergy International.* 2010; 163: 345-54
 91. Umekoji A, Fukai K, Yanagihara S, Ono E, Sowa J, Ishii M: Rapid detection of Bartonella henselae heat shock protein DNA by nested polymerase chain reaction from swollen lymph nodes of a patient with cat-scratch disease. *J Dermatol.* 2009; 36(10): 548-50
 92. Oiso N, Kishida K, Fukai K, Motokawa T, Hosomi N, Suzuki T, Mitsuhashi Y, Tsuboi R, Kawada A: A Japanese piebald patient with auburn hair color associated with a novel mutation p.P832L in the KIT gene and a homozygous variant p.I120T in the MC1R gene. *Br J Dermatol.* 2009; 161: 468-9
 93. Wataya-Kaneda M, Katayama I: Dissociate expression of TSC-1 product hamartin in a skin and pulmonary lesion of a tuberous sclerosis complex. *Hum Pathol.* 2009;40: 430-4
 94. Murakami Y, Wataya-Kaneda M, Tanaka M, Myoui A, Sakata Y, Katayama I: Case of schwannomatosis. *J Dermatol.* 2009; 36(9): 508-11
 95. Murota H, Kitaba S, Tani M, Wataya-Kaneda M, Katayama I: Effects of non-sedative antihistamines on productivity of patients with pruritic skin diseases. *Allergy* 2009; 65(7): 929-30
 96. Gunadi, Miura K, Ohta M, Sugano A, Lee MJ, Sato Y, Matsunaga A, Hayashi K, Horikawa T, Miki K, Wataya-Kaneda M, Katayama I, Nishigori C, Matuo M, Takaoka Y, Nishio H: Two Novel

- mutation in ED1 Gene in Japanese Families With X-Linked Hypohidrotic Ectodermal dysplasia. *Pediatr Res.* 2009; 65(4): 453-7
97. Oiso N, Amatsu A, Kawara S, Kawada A: Pigmentary mosaicism with hyperpigmented streaks on the palmoplantar lesion associated with balanced X; autosome translocations t(X; 9) (p11.21; q34.1). *J Eur Acad Dermatol Venereol.* 2009; 23: 259-61
98. Oiso N, Kawara S, Kawada A: Acquired melanocytic naevus in naevus depigmentosus. *Clin Exp Dermatol.* 2009; 34(7): e311-2
99. Murata I, Hozumi Y, Kawaguchi M, Katagiri Y, Yasumoto S, Kubo Y, Fujimoto W, Horikawa T, Kondo T, Kono M, Tomita Y, and Suzuki T: Four Novel Mutations of the ADAR1 Gene in Dyschromatosis Symmetrica Hereditaria. *J Dermatol Sci.* 2009; 53: 76-7
100. Yoshizawa J, Hozumi Y, Katagiri Y, Kawaguchi M, Shimanuki M, Suzuki T: Mucinous eccrine nevus. *J Eur Acad Dermatol Venereol.* 2009; 23: 348-9
101. Konno T, Abe Y, Kawaguchi M, Kondo T, Tomita Y, and Suzuki T: Functional analysis of OCA4 mutant sequences using under white mouse melanocytes. *Pigment Cell Melanoma Res.* 2009; 22: 235-7
102. Sakai K, Akiyama M, Yanagi T, McMillan JM, Suzuki T, Tsukamoto K, Sugiyama H, Hatano Y, Hayashitani M, Takamori K, Nakashima K, Shimizu H: ABCA12 is a major causative gene for non-bullous congenital ichthyosiform erythroderma. *J Invest Dermatol.* 2009; 129: 2306-9
103. Konno T, Abe Y, Kawaguchi M, Storm K, Biervliet M, Courtens W, Kono M, Tomita Y, Suzuki T: Oculocutaneous albinism type 4: a boy of Moroccan descent with a novel mutation. *Am J Med Genet A.* 2009; 149A(8): 1773-6
104. Tanioka M, Miyachi Y: Camouflage for vitiligo. *Dermatol ther.* 2009; 22(1): 90-3
105. Tanioka M, Takahashi K, Miyachi Y: Narrow band ultraviolet B therapy for inflammatory vitiligo with raised borders associated with Sjogren syndrome. *Clin Exp Dermatol.* 2009; 34(3): 418-20
106. Tanioka M, Yamamoto Y, Kato M, Takahashi K, Miyachi Y: Vitiligo vulgaris and autoimmune diseases in Japan: a report from Vitiligo Clinic in Kyoto University Hospital. *Dermato-Endocrinology.* 2009; 1(1): 43-5
(和文論文)
107. 阿部名美子, 倉繁祐太, 三橋善比古, 坪井良治: 東京医科大学病院皮膚科における1年間の新規白斑患者の統計. *皮膚病診療.* 2011; 33: 857-62
108. 大磯直毅, 成田智彦, 鶴田大輔, 川田 暁: 爪峽部領域の爪甲形成異常—腹側翼状爪—. *皮膚病診療.* 2011; 33: 229-32
109. 和田珠恵, 吉田益喜, 吉永英司, 大磯直毅, 川原 繁, 川田 暁: 肛門管癌の皮膚転移の1例. *皮膚の科学.* 2011; 10: 63-6
110. 東森倫子, 吉田益喜, 大磯直毅, 川原 繁, 川田 暁: 全身性エリテマトーデス患者にみられた皮膚クリプトコッカス症の1例. *皮膚の科学.* 2011; 10: 159-63
111. 金田眞理: 結節性硬化症の治療の現状と課題. *皮膚病診療* 2011; 33(2): 183-91
112. 加藤真弓, 谷岡未樹, 宮地良樹: 京都大学病院皮膚科におけるメイクアップケア外来の取り組み—3年間のまと. *皮膚の科学.* 2011; 10: 164-9
113. 種村 篤, 高橋 彩, 上木裕理子, 山中隆嗣, 室田浩之, 山口裕史, 片山一朗: 尋常性白斑に対する活性型ビタミン D3 外用と紫外線照射併用療法の有効性についての検討—活性型ビタミン D3 外用に日光浴もしくはナローバンド UVB 照射を併用した患者群の比較—. *皮膚の科学.* 2011; 10(6) 485-93
114. 錦織千佳子: 色素性乾皮症と紫外線発癌. *Visual dermatology.* 2011; 10(5): 452-5
115. 舩岡恵律子, 辻本昌理子, 錦織千佳子: 蜂窩織炎を契機に異型ポルフィリン症の症状増悪を呈した1例. *Visual dermatology.* 2011; 10(5): 478-9
116. 小野竜輔, 正木太朗, 竹内聖二, 上出良一, 錦織千佳子: スプライス異常の複合ヘテロ接合型変異による色素性乾皮症バリエーション型の1例. *Visual dermatology.* 2011; 10(5): 484-5
117. 田中えり子, 尾藤利憲, 舩岡恵律子, 小野竜輔, 清水秀樹, 山田陽三, 岡 昌宏, 錦織千佳子, 池村志麻乃: ヒドロクロロチアジドによると考えられた光線過敏型薬疹の6例. *皮膚の科学.* 2011; 10(2): 133-40
118. 福永 淳, 錦織千佳子, 伊藤 圭, 清水 宏, 佐々木りか子, 加藤真弓, 宮地良樹, 竹内 聡, 田代あかり, 古江増隆: 光線過敏症などに対するサンスクリーン剤の有用性評価. *西日本皮膚科.* 2011; 73(3): 271-7
119. 竹内聖二, 中野 創, 錦織千佳子: 骨髄性プロトポルフィリン症の6例: 1例の遺伝子解析症例

- を含む。皮膚の科学。2011;10(3):220-3
120. 阿部名美子, 坪井良治: 薬物療法尋常性白斑。皮膚科の臨床 2010; 52(11) 特; 50: 1684-7
121. 平尾文香, 大磯直毅, 成田智彦, 吉田益喜, 吉永英司, 川原 繁, 川田 暁: 神経線維腫症 1 型に生じた巨大悪性末梢神経鞘腫瘍の 1 例。Skin Cancer. 2010; 25: 56-60
122. 和田珠恵, 吉田益喜, 大磯直毅, 川原 繁, 川田 暁, 稲垣 侑: 皮膚原発の未分化神経外胚葉性腫瘍 (primitive neuroectodermal tumor: PNET) の 1 例。Skin Cancer. 2010; 25: 343-7
123. 市橋淳子, 吉永英司, 成田佳香, 大磯直毅, 川原 繁, 川田 暁: NB-UVB 療法が奏効した肥大性扁平苔癬。皮膚病診療 2010; 32: 539-42
124. 鶴田大輔, 今西久幹, 大磯直毅, 小林裕美, 石井正光: 特異な臨床像を呈した Perry-Romberg 症候群。皮膚病診療。2010; 32: 967-70
125. 大磯直毅, 川田 暁: 脱色素性母斑: 最近の知見。日小皮会誌。2010; 29: 85-9
126. 大磯直毅: 新しい検査 (エコー, 発汗検査を含む) 新しい遺伝子検査と診断への応用。日皮会誌。2010; 120: 2985-7
127. 東森倫子, 松田洋昌, 栗本貴弘, 遠藤英樹, 大磯直毅, 川原 繁, 川田 暁: 腎細胞癌の皮膚転移の 1 例。皮膚科の臨床。2010; 52: 1372-3
128. 石橋淳子, 吉永英司, 平尾文香, 三宅宗晴, 大磯直毅, 川原 繁, 川田 暁, 竹村 豊, 竹村 司: Netherton 症候群と考えられた 1 例。日小皮会誌。2010; 30: 37-40
129. 成田智彦, 吉永英司, 大磯直毅, 川原 繁, 川田 暁: 皮膚浸潤を生じた悪性胸膜中皮腫の 1 例。皮膚の科学。2010; 9: 536-40
130. 田中智子, 横関博雄, 片山一朗, 金田眞理, 田村 直, 菅野範英, 吉岡 洋, 玉田康彦, 四宮 滋子: 原発性局所多汗症診療ガイドライン。日皮会誌。2010; 120: 1607-25
131. 山中隆嗣, 種村 篤, 金田眞理, 片山一朗, 平川聡史, 橋本公二: 脳転移を来した乳房外 Paget 癌の 1 例: 剖検結果と進展様式の考察。皮膚の科学。2010; 9(3): 229-36
132. 山中隆嗣, 渡辺愛子, 庄田裕紀子, 田口敬子, 種村 篤, 金田眞理: 重症筋無力症を伴った胸腺腫患者に生じた, タクロリムス (プログラフ) による Stevens-Johnson 症候群の 1 例。皮膚の科学。2010; 9(3): 239-42
133. 錦織千佳子: 紫外線で誘導される IL-10 の役割。太陽紫外線防御委員会 平成 22 年度学術報告書 2010; 20: 1-6
134. 国定 充, 錦織千佳子: ナローバンド UVB と皮膚 発 瘡。Monthly Book Derma. 2010; 130(5): 1428-37
135. 内山真樹, 三橋善比古, 大久保ゆかり, 白井嘉彦, 後藤 浩, 坪井良治: Vogt-Koyanagi-Harada 病を合併した尋常性乾癬。皮膚病診療。2010; 32(9): 959-62
136. 藤井のり子, 三橋善比古, 倉繁祐太, 楠俊雄, 坪井良治: White fibrous papulosis of the neck。皮膚病診療。2010; 32(9): 971-4
137. 岸田功典, 大磯直毅, 鈴木民夫, 伊藤友章, 坪井良治, 三橋善比古: まだら症。皮膚病診療。2009; 31: 305-8
138. 金田眞理, 片山一朗: ファブリー病に対する酵素補充療法。皮膚病診療。2009; 31(3): 357-64
139. 室田浩之, 北場 俊, 谷 守, 金田眞理, 梅垣知子, 片山一朗: かゆみを伴う皮膚疾患患者での労働生産性の評価とヒスタミン H1 拮抗薬による改善効果の検討。Progress in Medicine. 2009; 29: 1842-8
140. 種村 篤, 黒田 聡, 金田眞理, 中島 清一, 西田 俊朗: 悪性末梢神経鞘腫—神経線維腫症 1 型に伴った例—。皮膚病診療。2009; 31(3): 313-6
141. 金田眞理: 結節性硬化症の分子病態と新しい治療法。医学のあゆみ。2009; 230(11): 981-6
142. 金田眞理: 結節性硬化症のガイドライン。日皮会誌。2009; 119(13): 2550-3
143. 村田壺大, 門馬文子, 川口雅一, 鈴木民夫, 三橋善比古, 星美智子: 水疱型先天性魚鱗癬様紅皮症。皮膚病診療。2009; 3: 203-6
144. 妹尾玲美, 村田壺大, 吉澤順子, 片桐美之, 小関伸, 鈴木民夫: 中央部が癬痕化した悪性黒色腫の 1 例。臨床皮膚科。2009; 63: 301-4
145. 稲垣克彦, 鈴木民夫, 富田 靖: SLC45A2 (MATP) 遺伝子に新規変異を認めた眼皮膚白皮症 4 型。皮膚病診療。2009; 31: 341-4
146. 近藤泰輔, 鈴木民夫, 河野通浩, 中澤 満, 富田 靖: 遺伝子解析により診断された Hermansky-Pudlak 症候群の女児例。皮膚病診療。2009; 31: 333-6
147. 河野通浩, 近藤泰輔, 鈴木民夫, 鈴木教之, 富田 靖: 遺伝性対側性色素異常症 病因遺伝子の変異部位は ADAR1 酵素の p150 アイソフォームの欠損を示す。皮膚病診療。2009; 31: 309-12
148. 鈴木民夫: 症候群随型眼皮膚白皮症 (解説)。皮膚病診療。2009; 31: 289-95
149. 門馬文子, 川口雅一, 鈴木民夫, 三橋善比古:

- 腎性全身性線維症. 皮膚病診療. 2009 ; 31 : 282-8
150. 鈴木民夫：遺伝子異常と検査法：色素異常症，母斑・母斑症の遺伝子診断の実際. *Derma*. 2009 ; 151:167-72
151. 谷岡未樹：リハビリメイクはこんなにも気持ちを軽くする. *Visual Dermatol*. 2009 ; 8:840-1
152. 塚本克彦：色素異常症 2) 白斑皮膚臨床. 2009 ; 51 : 1503-9
2. 学会発表
1. Abe Y, Hozumi Y, Tamia G, Suzuki T: Association of the melanogenesis genes with Japanese skin color variation. 第36回日本研究皮膚科学会学術大会, 京都 2011.12.9-11
 2. Oiso N, Fukai K, Narita T, Kabashima K, A. Kawada, Suzuki T: Epidemiologic evaluation for non-segmental vitiligo and related autoimmune disorders in Japanese patients. 第36回日本研究皮膚科学会学術大会 京都 2011.12.9-11
 3. 片山一朗：アトピー性皮膚炎—最新の病態と今後の治療—第356回日本皮膚科学会山形地方会ランチョンセミナー山形 2011.12.4
 4. 中野敦子, 木村聡子, 岩藤美佳, 川上民裕, 相馬良直, 音羽孝則, 中野信行, 柴垣有吾, 木村健二郎：灰緑色の腹水を伴った塩酸ミノサイクリンによる色素沈着の1例. 第839回日本皮膚科学会東京地方会 東京 2011.11.19
 5. 北場 俊, 室田浩之, 花房崇明, 小豆澤宏明, 片山一朗：抗 IL-6受容体抗体はブレオマイシン (BLM) 誘導性強皮症モデルマウスの症状を改善する 第61回日本アレルギー学術秋季学術大会 東京 2011.11.10-12
 6. 阿部理一郎, 齋藤奈央, 藤田靖幸, 吉岡直也, 保科大地, 前 博克, 林 宏明, 藤本 亘, 梶原一亨, 尹 浩信, 小豆澤宏明, 片山一朗, 清水 宏：グラニューライシン迅速測定キットを用いた重症薬疹早期診断の検討. 第61回日本アレルギー学術秋季学術大会 東京 2011.11.10-12
 7. 田中 文, 糸井沙織, 松井佐起, 谷 守, 花房崇明, 井川 健, 片山一朗, 千貫祐子, 森田栄伸：OAS が先行し, 茶のしづく石鹸使用後に発症した WDEIA の一例：石鹸の Inflammasome 刺激作用の検討. 日本アレルギー学術秋季学術大会 東京 2011.11.10-12
 8. 松井佐起, 北場 俊, 荒瀬規子, 室田浩之, 片山一朗, 森山達哉：花粉症患者における交叉反応性野菜・果物特異的 IgE の検出：花粉所言うから OAS 発症までの経過を追う. 第61回日本アレルギー学術秋季学術大会 東京 2011.11.10-12
 9. 鈴木民夫, 山田真枝子, 穂積 豊, 境 恵祐, 尹浩信：眼皮膚白皮症 3 型：新規遺伝子変異を伴った日本人第 1 例目の報告. 第56回日本人類遺伝学会 千葉 2011.11.9-12.
 10. Fukai K, Sunohara M, Ozawa T: Harada T, Ishii M: Dye laser photodynamic therapy for Bowen's disease in a patient with epidermodysplasia verruciformis. 61th The meeting of the American Society of Human Genetics. Montreal, Canada 2011.10.11-15
 11. 辻 知江, 田中 文, 種村 篤, 谷 守, 片山一朗, 白山純実, 八幡陽子, 飯島英樹, 水島恒和：人工肛門周囲に発症した壊疽性膿皮症の 2 例. 第63回日本皮膚科学会西部支部学術大会 沖縄 2011.10.8-9
 12. 田中 文, 早石祥子, 横見明典, 種村 篤, 谷 守, 片山一朗, 増澤幹男, 中嶋安彬：自然消退した原発不明転移性血管肉腫の一例. 第63回日本皮膚科学会西部支部学術大会 沖縄 2011.10.8-9
 13. 糸井沙織, 梅垣知子, 吉良正浩, 片山一朗, 堀内孝彦：1 型遺伝性血管性浮腫を合併した関節症乾癬の 1 例. 第63回日本皮膚科学会西部支部学術大会 沖縄 2011.10.8-9
 14. 清原英司, 横見明典, 種村 篤, 片山一朗, 緒方篤：関節リウマチへのトリシズマブ (抗 IL-6 抗体) 投与により頻回な皮膚潰瘍, 血疱, 紫斑を生じ Paradoxical Neutrophilic dermatosis と考えた一例. 第63回日本皮膚科学会西部支部学術大会 沖縄 2011.10.8-9
 15. 谷岡未樹：白斑の治療とメイクアップ. 第29回日本美容皮膚科学会 下関 2011.9.10-11
 16. Oiso N, Fukai K, Narita T, Kabashima K, Kawada A, Suzuki T: Generalized vitiligo and related autoimmune disorders in Japanese patients and their families. 21st International Pigment Cell Conference. Bordeaux, France 2011.9.20-2
 17. Kono M, Kondo T, Ito S, Suzuki T, Wakamatsu K, Ito S, Tomita Y: Oculocutaneous albinism 1 minimal pigment type; a case report on the analysis of genotype-phenotype correlation. 21st International Pigment Cell Conference. Bordeaux, France 2011.9.20-24
 18. Moltó E, Fernández A, Phillips C, Torres, O. Maronas M, Arveiler B, Morice-Picard F, Taïeb A,

- Aquaron R, Schiaffino V, Hayashi M, Suzuki T, Martínez M, Trujillo M. J, Ayuso C, Carracedo Á, Montoliu L: Albinohip: a universal genetic diagnosis for all known mutations associated to albinism. 21st International Pigment Cell Conference Bordeaux, France 2011.9.20-24
19. Suzuki T: What's new in albinism among Japanese 2011. 21st International Pigment Cell Conference Bordeaux, France 2011.9.20-24
 20. Abe Y, Hozumi Y, Tamia G, Suzuki T: Association of the melanogenesis genes with Japanese skin color. 21st International Pigment Cell Conference Bordeaux, France 2011.9.20-24
 21. 片山一朗: 日本における白斑治療の最新情報. 中国西域皮膚科学術集会 ウルムチ, 中国 2011.8.26
 22. 大畑千佳, 片山一朗: 外陰部の癬痕. 第27回 日本皮膚病理組織学会 東京 2011.7.23
 23. 千田聡子, 西岡めぐみ, 井川 健, 片山一朗: ドレニゾンテープによる治療が奏効した necrobiosis lipidica の2例 第104回近畿皮膚科集談会 大阪 2011.7.10
 24. 中野真由子, 矢島智子, 糸井沙織, 壽 順久, 種村 篤, 片山一朗: 尋常性白斑を合併したアトピー性皮膚炎の臨床的特徴および免疫組織化学染色による検討. 第104回近畿皮膚科集談会 大阪 2011.7.10
 25. 金山美恵, 深井和吉, 石井正光: Circumscribed palmoplantar hyperkeratosis の一例 第104回近畿皮膚科集談会 大阪 2011.7.10
 26. 春原真理, 小澤俊幸, 原田輝一, 深井和吉, 石井正光: 疣贅状表皮発育異常症患者の Bowen 病に対してダイレーザーを用いてフォトダイミックスセラピーを行った症例 第27回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 東京 2011.6.3-4
 27. 室田浩, 北場 俊, 片山一朗, 嶋 良仁, 桑原祐介, 田中敏郎, 岸本忠三: 治療抵抗性の全身性強皮症に対するトシリズマブ (アクテムラ) の使用経. 第100回日本皮膚科学会静岡地方会 浜松 2011.6.19
 28. Suzuki T, Hayashi M: Hereditary hypo-pigmentary disorders. 22nd World Congress of Dermatology Seoul, Korea 2011.5.24-29
 29. 片山一朗: アトピー性皮膚炎の最新治療. 第28回 日本医学会総会 2011東京 2011.4.8-10
 30. Katayama I, Kijima A, Ishikawa A, Matsui S, Kitaba S. Murota H : Abnormal axon reflex-mediated sweating in atopic dermatitis; possible relationship to impaired barrier function. WCD2011 Atopic Dermatitis Ancillary Meeting Seoul, Korea 2011.3.24
 31. Katayama I, L Nieuweboer, Krobotova Y , Y Gauthier : Definition of Koebner phenomenon. Agenda of Vitiligo Global Issues Consensus Conference Preparantion Meeting during WCD SEOUL Seoul,Korea 2011.3.24
 32. 谷岡未樹: 京都大学皮膚科白斑外来の取り組み. 第74回日本皮膚科学会東京支部大会 東京 2011.2.10-11
 33. 三宅宗晴, 吉永英司, 成田智彦, 大磯直毅, 吉田益喜, 川原 繁, 川田 暁: 近畿大学皮膚科における過去10年間の乳房外 Paget 病の統計. 第422回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪 2010.12.18
 34. 泉谷美幸, 吉永英司, 成田智彦, 吉田益喜, 大磯直毅, 川原 繁, 川田 暁: 手掌に生じた Bowen 病の1例. 第422回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪 2010.12.18
 35. 東森倫子, 大磯直毅, 川原 繁, 川田 暁, 濱和子, 比留間政太郎: Microsporum canis による頭部浅在性白癬の兄弟発症例. 第422回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪 2010.12.18
 36. Hayashi M, Murata I, Hozumi Y, Mitsuhashi Y, Fujita Y, Suzuki T: Mutation analysis of two patients with Dyschromatosis symmetrica hereditaria. 第35回日本研究皮膚科学会学術大会, 和歌山 2010.12.3-5,
 37. Kono M, Kondo T, Suzuki T, Sukanuma M, Kaneda M, Shibaki A, Fujiwara S, Akita H, Lam J, Sanchez-Valle A, Tomita Y: Four novel ADAR1 gene mutations in patients withdyschromatosis symmetrica hereditaria anda mutation in patient associated with encephalitis. 第35回日本研究皮膚科学会学術大会, 和歌山 2010.12.3-5
 38. Ogura K, Fukunaga A, Oniki S, Nagai H, Okazawa H, Matozaki T, Nishigori C, Horikawa T: Rho kinase pathway regulates contact hypersensitivity response by regulating DC migration through SHPS-1. 日本研究皮膚科学会第35回年次学術大会・総会, 2010.12.3-5
 39. Taguchi K, Fukunaga A, Ogura K, Nishigori C: Therole of cutaneous dendritic cells in narrowband UVB induced immuno- suppression. 日本研究皮膚科学会第35回年次学術大会・総会, 2010.12.3-5
 40. Oiso N, Tsuruta D, Imanishi H, Kobayashi

- H, Kawaka A: Histopathological and ultrastructural study for a Japanese female child case of erythema dyschromicum perstans. The 35th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, 2010.12.3-5, Wakayama, Japan,
41. 阿部優子, 穂積 豊, 田宮 元, 鈴木民夫: 日本人女性の皮膚色と眼皮膚白皮症2型原因遺伝子のSNPとの関係について. 第23回日本色素細胞学会学術大会, 東京 2010.11.27-28
 42. 林 昌浩, 村田壺大, 穂積 豊, 三橋善比古, 藤田靖幸, 鈴木民夫: 臨床的に遺伝性対側性色素異常症と診断した3例の遺伝子解析第23回日本色素細胞学会学術大会 東京 2010.11.27-28
 43. 河野通浩, 近藤泰輔, 鈴木民夫, 金田眞理, 藤原作平, 芝木晃彦, Amarillis Sanchez-Valle, 秋田浩孝, Joseph Lam, 富田靖: 遺伝性対側性色素異常症原因遺伝子ADAR1の5新規変異とウイルス性大脳炎発症後に皮膚症状を発症した1例第23回日本色素細胞学会学術大会, 東京 2010.11.27-28
 44. 種村 篤: 白斑の基礎—白斑のこれまでの病因論と炎症性サイトカインの影響について—. 日本色素細胞学会ランチョンセミナー: 白斑の基礎, 東京 2010.11.27-28
 45. 塚本克彦, 松澤高光, 松澤美幸, 小松明日香, 長田厚: CUSAを用いた分節型尋常性白斑の新しい治療法. 第23回日本色素細胞学会学術大会, 東京 2010.11.27-28
 46. 保田知生, 梶川竜治, 辰巳陽一, 西隈菜穂子, 柳生行伸, 高田 裕, 大磯直毅, 山元秀明, 田中俊夫, 奥野清隆: 当院における中心静脈穿刺手技における安全管理と卒後教育の取り組みについて. 医療の質・安全学会第4回学術大会, 2010.11.21-23, 東京
 47. 辰巳陽一, 西隈菜穂子, 大磯直毅, 保田知生, 加戸聖美, 酒井美恵, 赤尾幸恵, 奥野清隆: PDAシステムを用いた, 投薬事故防止システムの開発のその効果. 医療の質・安全学会第4回学術大会, 東京 2010.11.21-23
 48. 大磯直毅: 「白斑の治療」汎発型尋常性白斑の疾患感受性遺伝子と治療. 第23回日本色素細胞学会学術大会, 東京 2010.11.22-23
 49. 塚本克彦, 佐野信也, 花輪宏明, 長田 厚: 超音波メス(CUSA)を用いた難治性尋常性白斑の新しい治療法. 第74回日本皮膚科学会東部支部総会, 仙台 2010.11.21
 50. 種村 篤: 尋常性白斑の病因論および白斑を含めたエキシマランプの治療応用について厚労省の白斑・白皮症研究班における研究結果の概略およびエキシマランプ治療の推奨度について. 第6回中国皮膚科学会, 鄭州, 中国 2010.11.20-22,
 51. 浅井克則, 豊田真吾, 小林真紀, 井間博之, 尾原信行, 早川航一, 岩本文徳, 川口 哲, 若山暁, 金田眞理, 吉峰俊樹: 内頸動脈海綿静脈洞瘻で発症した血管型 Ehlers-Danlos 症候群の一例. 第26回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 北九州 2010.11.18-20
 52. Oiso N, Murata I, Hayashi M, Suzuki T, Kawada A: Dyschromatosis symmetrica hereditaria: consideration of the pathogenesis with dermoscopic features. The American Society of Human Genetics 60th Annual Meeting, Washington.DC.USA 2010.11.2-6
 53. Fukai K, Oshimo T, Abe Y, Hozumi Y, Tanaka A, Yamanishi K, Ishii M, Suzuki T: Mottled hypopigmentation on the trunk in a Japanese case of PCWH with p.Q377X nonsense mutation. 60th The meeting of the American Society of Human Genetics, Washington DC, USA 2010.11.2-7
 54. 深井和吉, 大霜智子, 鈴木民夫, 阿部優子, 穂積 豊, 横井俊明, 山西清文, 石井正光: Waardenburg syndrome type 4 に神経症状が加わった PCWH の一例. 第55回日本人類遺伝学会, さいたま市 2010.10.27-30,
 55. Oiso N, Kawara S, Kawaka A: Pigmented spots on the nipple: a sign of mammary Paget disease. The First Eastern Asia Dermatology Congress, Fukuoka, Japan, 2010.9.30-10.3
 56. Matsuda H, Endo H, Oiso N, Kawara S, Kawada A: Clinical effectiveness of faropenem (FRPM) for inflammatory acne. The First Eastern Asia Dermatology Congress, Fukuoka, Japan 2010.9.30-10.3
 57. 谷岡 未樹: Camouflage for vitiligo patients improves their quality of life. 第1回 EADC, 福岡 2010.9.30-2010.10.3
 58. Tsukamoto K, Matsuzawa T, Osada A: New approach to repigmentation of vitiligo: treatment with CUSA, seed-grafting and narrowband UVB therapy. The First Eastern Asia Dermatology Congress, Fukuoka, Japan 2010. 9.30-10.3,
 59. Tanemura A: Possible link between keratinocyte expression of pSTAT3 and Th17 in infiltration to the lesional skin in vitiligo Vulgaris (Oral

- presentation). 1st Vitiligo World Congress, Milano, Italy 2010.9.23-25
60. Kotobuki Y, Katayama I: Proinflammatory cytokines regulate MITF-related molecules expression and melanin production in vitro — Possible Pathogenesis of Vitiligo —1st Vitiligo World Congress. Milano, Italy 2010.9.23-25
 61. Yajima T, Katayama I: Five cases of vitiligo vulgaris complicated by adult atopic dermatitis. 1st vitiligo world congress. Milano, Italy 2010.9.23-25
 62. Itoi S, Katayama I: Five cases of vitiligo vulgaris complicated by adult atopic dermatitis. 1st vitiligo world congress. Milano, Italy 2010.9.23-25
 63. Takeuchi S, Sato M, Nishigori C: Aberrant migration in the XPA-lacking cells. Workshop on xeroderma pigmentosum and other diseases of human premature aging and DNA repair : molecules to patients, 2010.9.21-24
 64. Ono R, Masaki T, Takeuchi S, Tanioka M, Nishitani N, Shimizu A, Kambe N, Matsue H, Kamide R, Nishigori C : Three cases of xeroderma pigmentosum variant group (XP-V) genetically diagnosed in their childhood before developing skin cancers. Workshop on xeroderma pigmentosum and other diseases of human premature aging and DNA repair :molecules to patients, 2010.9.21-24
 65. 高原祥子, 平田 央, 深井和吉, 石井正光, 湯峯克也, 永尾 淳 : 中毒性表皮壊死症の1例. 第421回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪 2010.9.18
 66. 錦織千佳子 : 光線過敏症 up-to-date. 第61回日本皮膚科学会中部支部総会, 2010.9.11-12
 67. 中野早苗, 大磯直毅, 吉永英司, 川原 繁, 川田 暁, 矢野泰弘, 中野 敦 : 多数のタカサゴキララマダニ刺咬症の1例. 第421回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪 2010.9.18
 68. 大磯直毅 : シンポジウム5 白斑とシミ Up-to-date 尋常性白斑の疾患感受性遺伝子と治療. 第61回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 大阪 2010.9.11-12
 69. 大磯直毅, 吉田益喜, 川原 繁, 川田 暁 : 組織学的に heterogeneity を認めた外陰部無色素性黒色腫. 第61回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 大阪 2010.9.11-12
 70. 笹屋晴代, 大磯直毅, 鶴田大輔, 今西久幹, 和田珠恵, 平尾文香, 川原 繁, 小林裕美, 川田 暁 : リール黒皮症褐色色素沈着に対して Intense pulsed light 照射が有用であった1例. 第61回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 大阪 2010.9.11-12
 71. 田中まり, 金田真理, 片山一朗 : 結節性硬化症の顔面血管線維腫に対するラバマイシン軟膏外用療法. 第61回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 大阪 2010.9.11-12
 72. 種村 篤 : 白斑の病因論. 第61回日本皮膚科学会中部支部学術大会シンポジウム 大阪 2010.9.11-12.
 73. 谷岡未樹 : 白斑とシミ update. 尋常性白斑患者のQOLとメイクアップケア外来. 第61回日本皮膚科学会中部支部総会, 大阪 2010.9.11-12
 74. 塚本克彦, 佐野信也, 花輪宏明, 長田厚 : CUSAを用いた難治性白斑の新しい治療法. 第25回日本皮膚外学会, 別府 2010.9.4-5
 75. Funasaka Y, Mohamed AD, Harada T, Aiba A, Kawana S, Nishigori C: Signals involved in oncogenic activities of metabotropic glutamate receptor 1.16th Meeting of the European Society for Pigment Cell Research, Hinxton, UK 2010.9.4-7
 76. 川原 繁, 栗本貴弘, 吉永英司, 大磯直毅, 川田 暁 : 乾癬に対するナローバンドUVB長期療法中に合併した表在性播種型汗孔角化症の1例. 第25回日本乾癬学会学術大会, 山口 2010.9.3-4
 77. Taguchi K, Fukunaga A, Ogura K, Nishigori C: Cellular mechanism in narrowband UVB-induced immuno- suppression. 14th International Congress of Immunology 2010.8.22-27
 78. 小野竜輔, 正木太朗, 竹内聖二, 上出良一, 錦織千佳子 : スプライス異常の複合ヘテロ変異でPOLH蛋白の発現が弱く認められた色素性乾皮症バリエーション群の1例. 第32回日本光医学・光生物学会, 2010.7.30-31
 79. 大磯直毅, 木村雅友, 川原 繁, 川田 暁 : ダーモスコピーで多彩な脈管像を呈した infantile hemangioma precursor の1例. 第37回皮膚かたち研究学会学術大会 (旧日本電顕皮膚生物学会), 東京 2010.7.24-25
 80. 東森倫子, 坂本幸子, 笹屋晴代, 松田洋昌, 栗本貴弘, 吉永英司, 大磯直毅, 川原 繁, 川田 暁 : 疱疹状天疱瘡の1例, 第103回近畿皮膚科集談会, 第420回日本皮膚科学会大阪地方会, 第416回日本皮膚科学会京滋地方会, 大阪 2010.7.4
 81. 和田珠恵, 栗本貴弘, 吉永英司, 遠藤英樹, 大